

第2回 実践検討会

令和5年10月26日

○実施園 奈良市立こども園 4歳児

○指導助言 養成大学スーパーバイザー

○参加者 令和5年度幼児教育アドバイザー 8名
奈良市立園 副園長 11名



カンファレンスについて (司会・記録：幼児教育アドバイザー)

【研究主題】 「心を動かし、意欲をもって遊びや生活する子どもをめざして
～明日につながる援助や環境構成のあり方を探る～」

【4歳児 活動のねらい】

- ・友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・身近な秋の自然に興味をもち、見たる触れたり遊びに取り入れたりして遊ぶ。

【カンファレンスをするにあたっての心構え・事前準備など】

司会

- ・4歳児の3期の特徴と照らし合わせて進める。
- ・環境構成や援助など、子どもの心が動かされた要因を探る。
- ・明日につながる援助や環境構成を今後どのようにしてかという点に重点が置けるように時間配分をする。

- ・記録者は別にいることから参加者の意見や思いを聞くことに徹する。
- ・話す人の意見や考えを受けとめ、重要だと思うことについては端的にまとめて復唱する。また、発言した参加者が受け止めてもらえたという安心感が得られるようにする。

記録

- ・模造紙に園の研究主題とねらいを記入しておく。
- ・司会者が復唱することは重要だと捉え、参加者に共有できるよう記録する。
- ・カンファレンス中盤で参加者全員がそれまでの話し合いを振り返れるよう、記録の模造紙全体をみて確認する時間を設ける。

【反省・課題】

- ・明日につながる援助や環境構成について話し合う配分を十分取ることができた。またそのことについて話すためには、しっかりと子どもの遊びを見取ることが大切であることも改めて感じた。
- ・話し合いの視点や流れ、ポイントなどを事前に参加者に伝えてから始めるようにしたことで、全員が意識しながら話をするのができて良かった。
- ・発言したことに対して頷き共感はできたが、話を聞きながら意図を整理し次に進んでいくよう進行することが難しかった。
- ・本題から少し話が逸れた際に、要点をつかみ戻していく舵取りが難しく感じた。
- ・司会者自身が保育への思いをもっておく必要があると思うが、カンファレンスではそれを前面に出しすぎず、相手の意見を引き出しながら進行していく必要がある。
- ・深く話し合いたい内容をカンファレンスの始めに話し合っ決めて、絞ったことで、意見交流したい内容についての時間を十分に取ることができた。
- ・参加者用の記録用紙と同じ形式で模造紙に記録していったことで、意見の整理がしやすかった。聞き取り記録することの難しさはあるが、後から見ても分かりやすい記録となるよう工夫することが必要であると感じた。
- ・ポストイットを利用せず直接書き込む記録は、素早く視点を絞り簡潔にまとめる必要があるので難しく感じた。

カンファレンスを通しての学び、気づき（子どもの姿の捉え方、協議内容について）

◆令和5年度 幼児教育アドバイザー

- ・子どもの見取りを深く話し合うことで、明日につながる意見が多く出てくること、担任は得た意見や子どもの声を聞き、子どもの姿に合わせた環境構成や援助を行うことが大切であることを再確認した。

- ・大人数の園では一人一人の気付きを語るだけで時間がなくなり、明日につながる環境構成や援助といった話し合いまで辿り着きにくい悩みもあった。その場合、少人数のグループごとにする方法や、今回のように進行役と記録役を分担することもカンファレンスを豊かにするために有効ではないかと感じた。
- ・カンファレンスでは、まず子どもの見取りから始め、次に環境構成や援助についてたくさんの意見を出し合うことで、明日につながるヒントへとつながっていくことを学んだ。

◆奈良市立園 副園長

- ・日頃、進行役を務めている同じ立場のものが参加したことで、悩みなど様々な意見交換をすることができた。また、客観的に自身と照らし合わせ機会となった。
- ・参加者側になると、進行役に声をかけてもらう方が話しやすいことや、人の話を聞いていると、自身も同じことを思っていることを伝えたい等、参加者側の思いを感じる事ができた。
- ・カンファレンス進行についての悩みを共感し、どうすればいいか共に考える機会となった。いつも一人で悩んでいることを、同じ立場の先生方と考えられたことがとても嬉しく感じた。
- ・司会者が開始前に『明日につながる援助や環境構成』の部分の特に時間をかけて話し合いたいということを伝えたことで、参加する側も話がしやすかった。
- ・他の参加者の意見から、それについて自身が気付いたことや感じたこと、共感できることを伝えることで、新たな気付きやアイデア、保育として何が大切かなどに意見が広がり、討議が深まっていたように感じた。

スーパーバイザーの先生からのアドバイス

- ・アドバイザーと副園長が合同で行うことで、方法を確認したり参考にしたりする場になる。
- ・あいづちや頷きは共感が伝わり参加者が話しやすい雰囲気につながる。
- ・焦点を絞って話し合うのもよい。
- ・若手職員がこれでいいのかと迷うような際も、共に保育を語ることで行動に意味づけをしていることになる。言葉にして伝えることは大切である。
- ・子どもの姿を十分に語ったうえで、“こんなこともできたかもしれない”というアイデアが出る。アイデアは渡すが、どの時期に、どの案を選択するか決定をするのは担任である。
- ・誰もが守るべきような安全面に関わることは、すぐに職員に伝える必要がある。言いにくいことを伝える際は、子どもの姿や職員の頑張りをしっかりと伝えたいと話すようにするとよい。

今後現場でどのように活かしていくか

- ・日頃から、保育や子どもの姿について職員と話することができるよう保育を参観し、自分から職員との対話の機会を作る。また、自分自身の子どもを見取る力を養いながら、子どもの姿に合わせた人的、物的環境を職員と共に考えていきたい。
- ・カンファレンス進行時は、要点としたいポイントを伝えてから相手に話を振ることで、話題が多岐に渡りすぎないようにしたい。
- ・見取りとその姿につながる環境、援助を楽しく語ることが保育者へのご褒美だと佐川先生がお話して下さったことで、まずは子どもの姿を楽しく語ることができるとを大切にして今後カンファレンスを進めて行きたいと思った。
- ・参加者としてカンファレンスに参加したことで、今までと違った視点で進行の在り方を考える機会となり、司会・進行の方法について自身が実践してきたことへの振り返り、確認の機会となり、今後の実践に活かせる学びとなった。
- ・出たポイントとなるような意見を司会者が取り上げ、それについて気付いたことや感じたことを参加者が新たに出し合っって意見交流することも、討議を深めることを目的にするのであれば、カンファレンスの方法の一つとして実践できると感じた。

スーパーバイザーの講評より学んだこと

- ・カンファレンスにおいて、複数で話し合うこと（語り合うこと）で、「こんなことができるかも」と明日につながるヒントが出てくる。たくさん出てきたヒントやアイデアは、担任が選択していくものということ。「明日からはできる」「時期が来れば」「来年できるかも」などを選んでいけばよいことを知らせていきたいと感じた。
- ・カンファレンスで子どもの見取りを深く話し合い、環境構成や援助を言葉にして確認することが保育者の行為の意味付けになり、そのことで、保育者は認められた感覚を持ち、話し合いの中で見えてくる意見を受け入れやすくなる。意見は、“いつ選択しても、どれを選択してもしなくても、選択は担任”という心構えで伝える。
- ・複数人で話し、子どもの姿の見取りや環境を参加者が言葉にして伝えることで、している保育に意味があることが再確認でき、見えていなかったことも見えてくるようになった。
- ・カンファレンスの時間は保育を語れる場であり、楽しく保育を語ることが若手への手本となり、保育の面白さを感じることに繋がる。
- ・まずは子どもの姿や実践をしっかりと見取り、その姿に向かうための環境や援助を言葉に表し、意味を伝えることが大切である。

- ・言いにくいことを伝えることの難しさがある。職員に伝える時には、職員の頑張りを十分に認めてから伝えるようにする。不適切な保育事例や安全管理においては、誰もが守るべき倫理をストレートに伝える。

【記録用紙】

令和5年度 幼児教育アドバイザー実践検討会記録用紙 令和5年10月26日（木） 4歳児

研究主題：心を動かし、意欲をもって遊びや生活する子どもをめざして
～明日につながる援助や環境構成のあり方を探る～

《4歳児3期の特徴》
「友達と一緒にいろいろな遊びや活動に、意欲的に取り組む時期」

遊び	子どもは何に心を動かされてきましたか	それを支える要因は何だと思いますか (環境構成・援助)	今日の子どもの姿から、 明日につながる援助や環境構成を、 自分ならどのように整えますか

研究主題:心を動かし、意欲をもって遊びや生活する子どもをめざして

4歳児

～明日につながる援助や環境構成のあり方を探る～

環境・援助
子どもの姿

明日へつなげるエッセンス

遊び 子どもは何に心を動かされましたか

それを支える要因は何だと思いますか
(環境構成・援助)

今日の子どもの姿から、
明日につながる援助や環境構成を、
自分なりのように考えます。

ごちそうづくり

- ・くわ返しをも出して遊んでいる姿
- ・子どもたちが食材を運んでくれている
- ・お水は、お水だけでなく、においも感じて遊んでいる
- ・偶然にできたイメージを知覚して見ている
- ・給食生活でなく遊びのイメージで遊んでいる

- ・子どもたちが使うお水
- ・食材やお水がよほどきれいである
- ・お水の匂いを感じている
- ・お水の匂いを感じている
- ・子どもたちがつづつお水を持っていく
- ・お水の匂いを感じている

- ・木の実は木をたたくと大きくなる
- ・木の実は木をたたくと大きくなる
- ・木の実は木をたたくと大きくなる
- ・木の実は木をたたくと大きくなる
- ・木の実は木をたたくと大きくなる
- ・木の実は木をたたくと大きくなる

リーキッドあそび

- ・子どもたちがコースを把握して体験を楽しんでいる
- ・自分の好きな物からスタートしている
- ・スプーンの置き方を工夫して遊んでいる

- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い

- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い
- ・コースのイメージが強い

ステーション

- ・小工場のイメージが強い
- ・小工場のイメージが強い
- ・小工場のイメージが強い

- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い

- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い
- ・ステーションのイメージが強い